

ゲーム・ネット依存者家族の現状と課題

—家族の関わりが依存軽減に果たす役割に注目した質的記述的研究の結果から—

社会福祉学専攻 原田 由香

要旨

世界保健機関(WHO)は、2019年5月「ゲーム障害」を国際疾病分類として認定し、新たな依存症、治療が必要な疾病として扱うことになった。オンラインゲーム、インターネット等の過剰な使用により朝起きられず、昼夜逆転、遅刻、欠席、食事をしない、睡眠障害、家族への暴言・暴力といった日常生活に支障をきたしていることが問題となっている。こうした問題を抱える子どもの家族もまた、不安とストレスにさらされ、どのように対応すべきか分からずに疲弊している。依存からの回復過程において、家族の役割は重要でありながら、その具体的な支援方法については十分な研究が行われていない。

本研究では、ゲーム・ネット依存の軽減における家族の関わりの重要性を再確認し、家族が直面する困難や効果的な関わりの実態を明らかにすることを目的とした。

調査対象は、ゲーム・ネット依存の子どもと同居または養育している家族10名に対し、半構造化面接を実施した。その結果を質的記述的研究により分析し、コアカテゴリー、カテゴリー、サブカテゴリーを生成した。

分析によって生成されたコアカテゴリーは「困難」、「対処」、「対応の変化」、「課題」の4つであった。それに関連するカテゴリーは「ゲーム・ネット依存に対する家族の困難」、「子どもの状況と特性の理解」、「ゲーム・ネットの特徴と理解」、「専門相談機関との連携」、「回復・解決に向けた対応」、「ゲーム・ネット依存への課題」の6つであった。さらに、回復とその傾向においては、「子どもの意向を聞く」「家族の協力」「ゲームを通じた子どもとの関わり」「子どもの体調回復」「子どもの変化」「医療機関との連携」といった要素において違いが認められた。

本研究は、これまで十分に探究されていなかった家族の役割に焦点を当て、家族を中心にした具体的な回復モデルを提示したことで、従来のアプローチとは異なる実践的な示唆をもたらした。特に、「困難」、「対処」、「対応の変化」の回復プロセスを明らかにし、依存からの回復に向けた12の効果要素を特定したことは、家族が依存軽減に向けた活動を行う際の客観的な指標となる。また、回復傾向からの効果要素が明らかになったことで、具体的な対応の検討が可能となり、子どもの依存を軽減し、家族全体の支援に繋がることが期待される。

得られた知見は、今後の家族支援の理解と対応・改善に寄与するものであり、ゲーム・ネット依存の子どもとその家族への実践的な支援の重要な一歩となる。